

# 藤葉和歌集

藤葉和歌集卷第二

夏歌

三十首歌めされし次に、江蛭を

法皇御製

あししげる入江の水のくらきよに

おのれまがはずとぶ蛭かな

同じ心を

よみ人しらず

難波江やあまのいさり火たくなはの

うちはへもえて行く蛭かな

丹波忠朝臣

ひろひける玉かとみえて伊勢の海の

清きなぎさに飛ぶ蛭かな

権中納言公雄、人人によませ侍りける北野三首歌に、  
蛩を

前中納言公脩

雲井までかよふ蛩のかけをみて

神もむかしや猶しのぶらん

嘉元百首歌奉りける時、同じ心を

前参議雅孝

月かげもおよばぬ草の下葉まで

照らす光はほたるなりけり

「国歌大観」より